

16. 子牛飼養管理マニュアルの普及定着

西部振興局 生産流通部 経営・畜産班

○高橋 敦

近年の大分県の子牛市場価格は全国平均を下回っている。その原因の一つに、市場出荷される子牛の発育にバラツキがあるため、市場全体が低く評価されていることがあると考えられる。

そこで県では、子牛の発育を改善して商品性を向上するために子牛飼養管理マニュアルを作成した。肉用牛繁殖経営が多い西部地区では、これをもとに久大地区子牛飼養管理マニュアルを作成し、普及定着に努めてきた。

この中でマニュアル実践農家認定基準を定めた。認定基準はこの3点。

- 1 生後一週間程度の早い段階で餌付けを実施している。
- 2 スターターを給与している。
- 3 出荷までに粗飼料を一日4 kg以上給与している。

この条件を満たした農家を実践農家とした。マニュアルに沿った飼養管理をしている農家は発育が向上し、日齢体重が優れた牛の割合が市場平均より高いなど、成果が上がっている。

これに反して、早期に蛋白質の高い飼料を給与すると下痢をする、粗飼料の多給は無理といった反発もあり、昔ながらの母乳を主体とした飼料給与を続ける農家が少なくない。

これに対して、西部振興局では関係機関と連携を取りながら、研修会や個別指導などで理論を説明し、肥育に適した子牛を出荷するために必要な事項であると説得してきた。これによりマニュアル理論は広まり、実践農家は21戸と拡大してきた。

また、マニュアルの良さを実証するために、実践農家の子牛の体高、胸囲、腹囲を出荷まで月齢ごとに測定した。その結果、マニュアルの飼養管理で良好な発育が可能であると確かめられた。

さらに、東部・北部振興局と合同で出荷時の体高、胸囲、腹囲を測定したところ、発育の良好な子牛の方が市場評価の高いことが確認できた。

しかし体測の結果、マニュアル実践農家でもまだ発育のバラツキがあることも確認できた。これは子牛ごとの細かい飼養管理が不十分なことが一因と考えられ、この改善も今後の課題である。

体測結果と飼料給与量の実績と組み合わせてより詳細な発育のデータをそろえ、細かい問題点を分析し、マニュアル実践農家の飼養管理の改善を進めるとともに、今後ともマニュアルの普及を促進する。